

授業科目名	児童家庭福祉	担当教員名	古川 督
必修/選択	必修（保育士資格）	開講学年・学期	3年 前期（年間開講数 1講座）
科目区分		単位数	2単位
施行規則に定める科目区分等		授業方法/担当形態	講義 / 単独
		特記事項	
授業の到達目標	現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷、児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権について理解するするとともに、児童家庭福祉の制度や実施体系や現状と課題について理解する。 (1)現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 (2)子どもの人権擁護について理解する。 (3)子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 (4)子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 (5)子ども家庭福祉の動向と展望について理解する		
授業の概要	現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷、児童家庭福祉と保育との関わり、児童家庭福祉の制度と実施体系について学習し、児童家庭福祉の現状を把握するとともに課題について考察する。		
テキスト	「子ども家庭福祉入門―子ども家庭福祉制度・サービスに基づいたソーシャルワークを学ぶ」芝野松次郎・新川泰弘ほか編著（ミネルヴァ書房）		
参考書・参考資料等	授業内で適宜、配布・提示する。		
成績評価の方法	受講態度30% / 授業内レポート20% / 定期試験50%		
授業計画	授業の内容	到達目標番号	
第1回	講義の進め方／評価／シラバス概要説明 児童家庭福祉とは	(4)	
第2回	超高齢社会における子ども家庭福祉	(4),(5)	
第3回	子ども家庭福祉の理念と専門職	(1),(3)	
第4回	子ども家庭福祉の展開	(1)	
第5回	子どもの権利擁護①	(2),(4),(5)	
第6回	子どもの権利擁護②	(2),(4),(5)	
第7回	子ども家庭福祉の法体系	(3)	
第8回	子ども家庭福祉の制度・事業	(3),(4)	
第9回	子ども家庭福祉の実施行政機関	(3),(4)	
第10回	子ども家庭福祉に関連する施設①	(2),(3),(4)	
第11回	子ども家庭福祉に関連する施設②	(2),(3),(5)	
第12回	地域の子育て家庭への支援の現状と課題	(3),(4),(5)	
第13回	要保護・要支援児童への支援の現状と課題	(2),(3),(4)	
第14回	子ども家庭福祉の動向と展望	(4),(5)	
第15回	まとめ	(4),(5)	
定期試験	レポート提出		